

聖母マリア——聖心会にとって——

(聖心会)
シスター新庄 美重子

「マリア、神の民のうちで信仰に生きた女性は、私たちの身近にいつもおられます。マリアは、御子の生命を受肉するものには、必ずその傍らにおられるのです……マリアの心はイエスのみ心に結ばれて、全く一つになっていますから、マリアが私たちをイエスに導いてくださるよう願っているのです」。



聖マグダレナ・ソフィア・バラ

その第一は、現在ブタペストの国立美術館にあるアンドレア・ソラリオ（十五世紀後半十六世紀）作のコピーで、聖マグダレナ・ソフィアが
一八〇〇年十一月
二十一日、パリで
最初の奉献をした
時、壁に掲げられ
ていた聖画です。
彼女はこの絵を
「聖心会の聖母」
と名付け、本部の
所在地が変わる度
に大切に運びまし

た。現在もローマの聖心会本部に飾られています。一八五〇年、創立五十周年には、会の各修道院に、この聖画のリトグラフイーと創立以来受けた限りない恵みを感謝する次のような祈りが贈られました。「イエスのみ心よ、あなたはマリアのみ心のうちにご自分の声を響かせ、マリアは主の愛と栄光に、ご自分を完全に奉献することによって応えられました。（中略）今、世界中に広がる全会員が、五十年前に奉献生活を始めた創立者と同じ熱意をもって、マリアの汚れないみ心を通して願います。全員が死に至るまで創立者と共にその同じ奉献を生きたことが出来ますように」。現在、会員は誓願宣立五十周年記念にこの聖画のコピーを贈られ、身辺に飾り、創立者と共に日々奉献を新たにしています。



聖心会の聖母

第二は、ヴァイラ・ランテと呼ばれるローマの聖心会を囲むジャンニコ丘陵にあり、一八三八年十一月、教皇グレゴリオ十六世によって祝別された「悲しみの聖母」の聖画です。複雑な問題を抱えた一八三九年の総会終了後、創立者はこの「悲しみの聖母」の前で、聖心会を次のような祈りによって奉献しました。「愛と悲しみのみ母聖マリア、イエスのみ心の模範に忠実に従ったあなたのみに倣う恵みをお与えください。とりわけ、生き生きとした信仰、真の謙遜、そして悲しみから立ち上がり、あなたと共に十字架の許に、静か



悲しみの聖母

に、しっかりと立つ勇気をお与えください。愛はあなたに十字架を与えました。願わくは十字架が私たちに愛を与え、イエスのみ心に奉献された私たちが、御子の十字架以外には、どのような十字架も知ることがありませんように。キリストの十字架が私たちの守り手となり、キリストの死が私たちの力、信頼となり、キリストの恵みが慰め、支えとなりますように……」。創立者はこの聖画を非常に愛していました。ジャンニコ遊歩

道が建設された時、この聖画を含む壁が破壊されてしまいました。その後間もなく、画家ガグリアルデイによってその絵が再生され、現在前述の聖心会内の一室に掲げられています。
第三番目は一八四四年に、ローマ・スペイン広場の上にあった聖心会修道院で、志願者のポーリーン・ペルドゥローが許可を得て、二階の廊下の壁に描いた聖母です。彼女はエルサレムの神殿にいる一人の若い女性としてのマリアをフレスコ画

で表現しました。一八四六年十月二十日、修道院を訪れた教皇ピオ九世がこの絵をご覧になり、そこに表現された聖母の美しさ、清らかさ、単純さに深く心を打たれ「実に感ずべき御母だ」と称賛されました。それ以来、この聖画は「感ずべき御母」(Mater Admirabilis) と呼ばれるようになりました。現在、世界中に広がる聖心女子学院には、どこを訪れても必ずこの画が飾られています。ここに描かれた若いマリアのお姿に、創立者が目指した女性の理想がうかがえるからです。マリアは見えないもの、本質的なものを観る女性であり、傍らに置かれた糸紡ぎとバスケットの上で置かれた聖書に象徴されるように、祈りと活動の中での沈着と冷静の鑑であり、多様な価値観が交錯す



感ずべき御母

る現代世界に生きる私たちに、もっとも大切なことは何であるかを示してください。イエスのみ心に最も近いマリアに、私たちはどんな時もイエスに取り次いでくださるようお願いできます。「執り成しを願って棄てられた者が、これまで一人もいなかったことを思い起こしてください」という聖ベルナルドの古い祈りにあるように。そして、マリアが神のみことばを迎え入れて、みことばを世に与えたように、私たちもイエスの生命を受けて、マリアと共に自分をわたす者となることを願います。